

ネットワークアンケート ④0

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院に通院中の糖尿病患者さんで、 自覚なく足に傷などができていた方はおられますか？

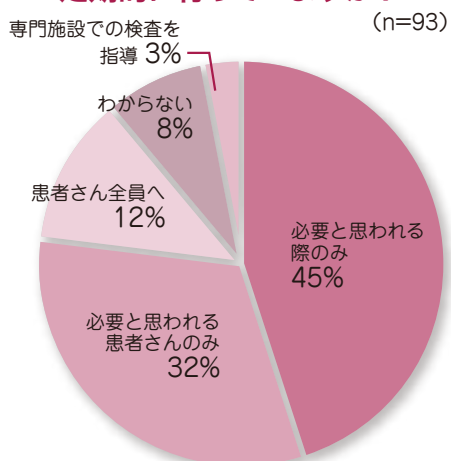
糖尿病合併症管理料が新設されてからフットケアを行う医療機関は増えつつありますが、それでも足病変は悪化してから発見されることが多く足切断者は後を絶ちません。フットケアの重要性への認識は広まっても指導の上での優先順位はまだ低いのでしょうか。今回は、糖尿病患者さんの足病変に対する意識と対策についてうかがいました。

[回答数：医療スタッフ93名（医師12、看護師49、管理栄養士12、薬剤師7、臨床検査技師5、その他8など。うち日本糖尿病療養指導士35、糖尿病看護認定看護師9）、患者さんやその家族425名（病態/1型糖尿病163、2型糖尿病255、その他7、治療内容/食事療法306、運動療法261、経口薬221、注射薬16、インスリン療法262/重複回答有）]

8割の医療スタッフが「いる」と回答し、直接経験していない人も含めると9割と、糖尿病患者さんにとって足に傷ができて気づかないことは珍しいことではないことがわかります。しかも6割以上の医療スタッフは足病変が進行してから発見されるケースを経験しており、足のチェックはとても重要であると言えます。

しかし、「院内にフットケアに関する専門知識のある医療スタッフがいる」と7割の方が答えていますが、定期的な足の検査を「患者さん全員」へ行っていると答えた方は12%。8割は必要がなければ行っていない

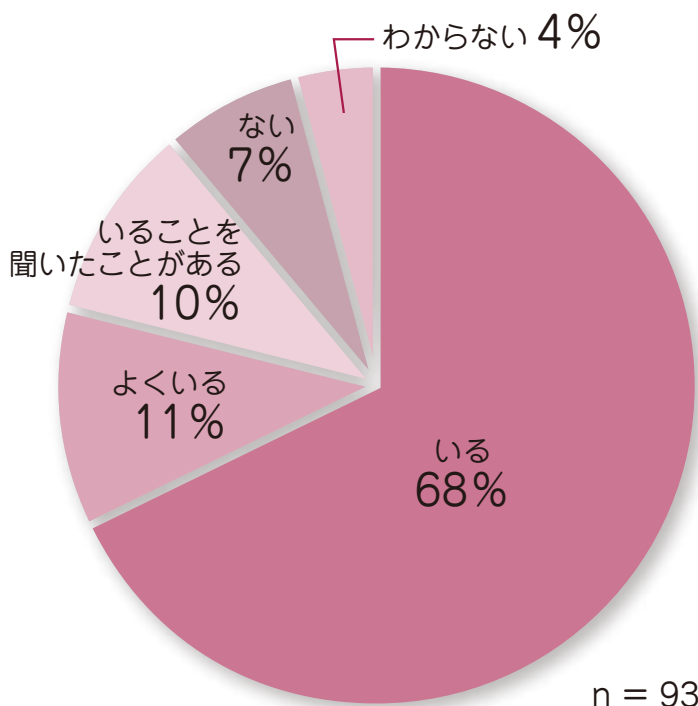
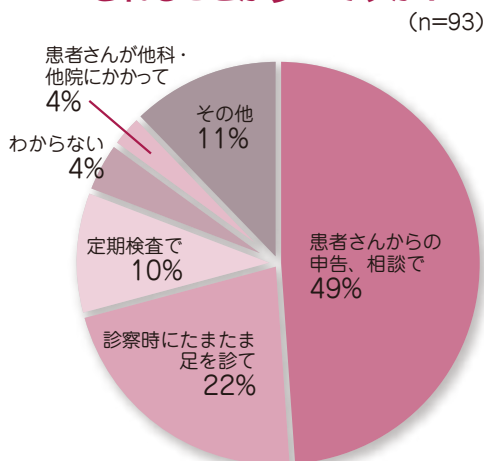
Q. 貴院では、足の検診を 定期的に行っていますか？



とのことでした。

それを反映してか、足病変発見のきっかけは、半数が「患者さんからの申告」で、医療者側によるものは「診察時にたまたま足を診て」が22%、「定期検査」が10%。足病変を発症することが多いと感じる患者さんとしては「神経障害を診断されているが、治療・管理がうまくいっていなかった方」57%、「神経障害の疑いはあったが、足の管理まで指導していなかった方」が37%、そして「神経障害の疑

Q. 足病変は、どのようにして発見 されることが多いですか？



いじたいを院内で把握していなかった患者さん」も21%おられました。

自由記述では、「医師にフットケアの重要性を理解してもらい、研修済みの看護師を確保、個別指導30分以上という体制を作ってもらい、この一連の流れを作るのが大変」、「患者の足病変リスクによって点数が異なるようにして、なるべくすべての患者が対象になるようにした方がよいと思う」、「今は全員の足をみているが、忙しかったり処置が必要な時、外来では対処が難しいこともある」、「糖尿病専門医の資格条件に「施設内でフットケア指導が行われている」みたいなものを入れては?」、「算定が低すぎる。時間も手間もかかるため、定期的にチェックしたいがやむを得ず悪化した時や患者の希望でしかできていないのが現状」等々、特にマンパワー不足を指摘する声が多くみられました。